

この紙面とほぼ同じ体裁になるよう、課題用ファイルを加工しなさい。
ただし、指示が書かれたテキストボックスと矢印は無視してよい。
紙に打ち出して名前を手書きで書き加えて提出しなさい。

図オブジェクトを「自由に配置できる図」として扱う場合、図の位置を定める方法として2つの方法があります。

右下の図は「挿入」→「図：クリップアート」で「パソコン」を検索して挿入しました。

図をクリックすると「図ツール：書式」というリボンが出現しますので「配置：文字列の折り返し」→「四角」に設定して下さい。そして「配置：文字列の折り返し」→「その他のレイアウトオプション」の「配置」タブにおいて「下方向の距離」の基準を「ページ」か「余白」に設定して下さい。「ページ」に設定すると紙の端からの距離、「余白」に設定すると文字列表示枠からの距離になります。こうすると、この図の位置は文章を挿入したり削除したりしても不動です。



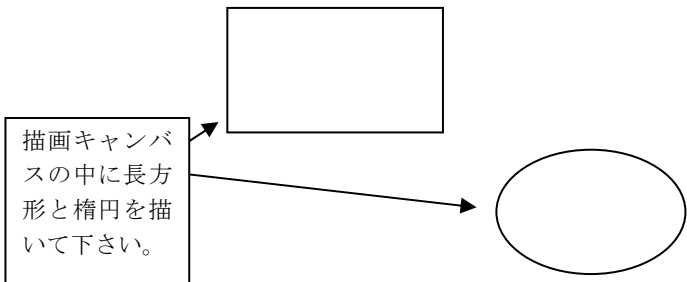
パソコンのクリップアートを入れて下さい。

図オブジェクトをクリックするとアンカー（碇マーク）が表示されます。図オブジェクトは必ずどこかの段落に結びつけられます。アンカーをドラッグすると結びつける段落を変更することができます。

長方形を描いて下さい。

この長方形は「挿入」→「図：図形」→「長方形」で挿入した後、「図ツール：書式」→「図形のスタイル：図形の塗りつぶし」を「塗りつぶしなし」に設定して描きました。「下方向の距離」を「段落」にしておくと、段落の位置が移動すると、長方形も連動して移動します。

このページの冒頭に改行をいくつか入れて、パソコンのクリップアートは不動で、長方形は移動することを確認して下さい。



これはテキストボックスです。このテキストボックスは描いて下さい。

複数の図形をまとめて扱いたいときは「描画キャンバス」の中に描きます。「挿入」→「図：図形」→「新しい描画キャンバス」です。描画キャンバスを作成した後、「図ツール：書式」→「配置：文字列の折り返し」→「四角」にして下さい。

文章を書きたいときは「挿入」→「図：図形」→「テキストボックス（一番左上）」です。デフォルトでは枠がつきますが、「テキストボックスツール：書式」→「テキストボックススタイル：図形の枠線」→「線なし」にすると枠を消すことができます。